

高等学校 令和7年度（2学年用）教科

国語

科目 論理国語

教科： 国語 科目： 論理国語

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（新編論理国語・東京書籍）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	論理の力 広がる風景 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、文や文章の組み立てや接続について深く学ぶことができる。また、主張とその前提、反証など、情報同士の関係についての理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握しつつ、主張の根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学ぶことの根拠や意味について理解し、学習課題に沿って自分自身との関連について考えをまとめることができる。	・指導事項 ・つながる力 ・論証する力 ・対話とは何か ・世界をつくり替えるために	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力があることを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことで語感を磨いている。また、文や文章の組み立てや接続の効果的な方法について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつつ要旨を理解している。また、文章の構成や表現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ ICTを使用した課題（課題提出） ・ ワークシート（課題提出） ・ 漢字テスト準2級①～③（課題提出） ・ 漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	11
	B 単元 考える手がかり 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、文や文章の組み立てや接続について深く学ぶことができる。また、主張とその前提、反証など、情報同士の関係についての理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握しつつ、主張の根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学ぶことの根拠や意味について理解し、学習課題に沿って自分自身との関連について考えをまとめることができる。	・指導事項 ・少女たちの「ひろしま」 ・「ふしぎ」ということ	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力があることを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことで語感を磨いている。また、文や文章の組み立てや接続の効果的な方法について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつつ要旨を理解している。また、文章の構成や表現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ ICTを使用した課題（課題提出） ・ ワークシート（課題提出） ・ 漢字テスト準2級④～⑥（課題提出） ・ 漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	12
	定期考査			○	○		2

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	C 単元 人間と知性 ものの見方 「複数の『わたし』」 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、 文や文章の組み立てや接続について 深く学ぶことができる。また、主張 とその前提、反証など、情報同士の 関係についての理解を深めることが できる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構 成、論理の展開を的確に捉え、論点 を明確にして要旨を把握しつつ、主 張の根拠や論拠を批判的に検討し、 文章や資料の妥当性や信頼性を吟味 して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学ぶことの根 拠や意味について理解し、学習課題 に沿って自分自身との関連について 考えをまとめることができる。	・指導事項 ・ラップトップ抱えた「石器人」 ・複数の「わたし」	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力がある ことを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築 くために必要な語彙を増やし、文章の中で使う ことで語感を磨いている。また、文や文章の組 み立てや接続の効果的な方法について理解を深 めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、 論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつ つ要旨を理解している。また、文章の構成や表 現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多 角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト準2級⑦～⑨（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	15
	D 単元 【知識及び技能】文章の意味は文脈 の中で形成されることを理解でき る。語意を明らかにすること で、深い内容を理解できる。／指示 語に注意して、文脈を理解する。／ 人物像・状況・心理・行 動をセットにして、人物の内面や テーマ等について読み取れる。／文 学史の事項も理解する。 【思考力、判断力、表現力等】「読 むこと」にお いて、作品に表れているものの見方 や感じ方をとらえ、内容を解釈でき る。	・指導事項 ・山月記	【知識・技能】 を理解している。／普段馴染みのない漢語の意 味を理解している。／中島敦についての文学史 的事項を理解する。 【思考・判断・表現】場面の展開を理解し、 攻勢を把握している。／李徴の人物像を的確に 把握し、心理と行動を追える。／ 「尊大な羞恥心」と「臆病な自尊心」について 理解し、李徴はなぜ虎となったのかを理解す る。／作品のテーマについて考える。 【主体的に学習に取り組む態度】作品を分析的 かつ共感的に読み解き、自分自身を省みる。／ 人間について理解を深め、自分考え持ち他者と 意見交換することで、物の見方や感じ方、考え 方を深める。 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト準2級⑩～⑫（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	12
	定期考査			○	○		2
3 学 期	E 単元 働くよろこび 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、 文や文章の組み立てや接続について 深く学ぶことができる。また、主張 とその前提、反証など、情報同士の 関係についての理解を深めることが できる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構 成、論理の展開を的確に捉え、論点 を明確にして要旨を把握しつつ、主 張の根拠や論拠を批判的に検討し、 文章や資料の妥当性や信頼性を吟味 して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学ぶことの根 拠や意味について理解し、学習課題 に沿って自分自身との関連について 考えをまとめることができる。	・指導事項 ・はじめに「言葉」がある ・楽に働くこと、楽しく働くこと	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力がある ことを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築 くために必要な語彙を増やし、文章の中で使う ことで語感を磨いている。また、文や文章の組 み立てや接続の効果的な方法について理解を深 めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、 論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつ つ要旨を理解している。また、文章の構成や表 現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多 角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト準2級⑬～⑮（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習）				15
	定期考査						1
							合計 70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組 選択者

使用教科書：（標準古典探究・第一学習社）

教科 古典探究 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	「説話（1）」 【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語彙を豊かにする。・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「十訓抄」 「古今著聞集」 ・古文を読むための基礎的な知識を確認し、古典作品の特質を知る。・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ・古典に関する幅広い知識と教養を身に付け、我が国の言語文化を尊ぶ態度を培う。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 説話文学に興味をもち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。	○	○	○	12
	「随筆（1）」 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことをとおして、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「徒然草」 「方丈記」 ・古人の豊かな情操にふれる。・個人の価値を尊重し創造性を培う。・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことをとおして、語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 作者のものの見方を理解し、自分の体験や経験に引き寄せて考えようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	「物語（１）」 「説話（２）」 【知識及び技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「伊勢物語」 「竹取物語」 「沙石集」 ・想像力を養い、豊かな情操を培う。 ・我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている	○	○	○	14
	「故事・寓話」 「三国志の世界」 【知識及び技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすこととおして、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「助長」 「画竜点睛」 「水魚之交」 ・幅広い知識と真理を求める態度を養う。 ・短文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 故事成語に興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	「随筆（２）」 【知識及び技能】 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「枕草子」 ・古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化を養う。 ・古典に関する幅広い知識と教養を身に付け、我が国の言語文化を尊重する態度を培う。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 宮廷社会や作者について関心をもち、女流文学への理解を深めようとしている。	○	○	○	14
	「漢詩の鑑賞」 「不思議な世界」 【知識及び技能】 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「中国の詩」 「日本の詩」 ・想像力を養い、豊かな情操を培う。 ・漢詩文の訓読を通じて、音の美しさを味わう。 ・小説文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。 ・教科書、プリント、一人一台端末の活用	【知識・技能】 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 詩文の世界に親しみ、作者の思いを読み取ろうとしている。 長文に親しみ、小説のおもしろさや表現の巧みさを読み取ろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

国語

科目 国語表現

教科：国語 科目：国語表現

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（『国語表現』大修館書店）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ活への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたる国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語表現 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり裕に想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の想いや考えを広げたり深めたりすることが出来るようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1. 自己PRと面接 ・事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。 ・質問に対して、具体的に説得力のある答え方で答える。	・指導事項 ・教材 教科書「自己PRと面接」 ①自分を見つめて ②効果的な自己PR ③将来の自分を考えよう ④志望理由を書こう ⑤面接にチャレンジ ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、志望先と自分に関わる事柄の中から適切な題材を集め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・面接の留意点や面接での言葉遣いについて興味をもち、意欲的に自己評価や相互評価まで取り組もうとしている。	○	○	○	24
2 学期	2. 小論文・レポート入門 ・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。	・指導事項 ・教材 教科書「小論文・レポート入門」 ①小論文とは何か ②反論を想定して書く ③文章を読み取って書く ④論文を書くために ⑤小論文を書くために ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・小論文の特徴、構成や展開のしかたなどについて理解を深めている。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いて論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・小論文と感想文の違いをふまえ、小論文を書くことに関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	24
3 学期	3. 会話・議論・発表 ・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをする。	・指導事項 ・教材 教科書「会話・議論・発表」 ①相手や場面に応じた会話 ②建設的な議論の進め方 ③スピーチをしよう ④プレゼンテーションの工夫 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。〔A(1)ア〕 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。〔A(1)エ〕 ・「話すこと・聞くこと」において、設定した題材について調べたことを、図表や画像なども用いながら発表資料にまとめ、聴衆に対して説明している。〔A(2)オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・話し合いをよりよく進めることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	22
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 地歴科 科目 歴史総合

教科： 地理歴史 科目： 歴史総合

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 第一学習社 『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 日本及び世界の歴史を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の特色や相互の関連を考察し、それを説明したり議論したりするする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、日本国民としての自覚・世界の多様な生活文化を尊重する態度を養う。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる意味や意義を時期や年代、推移、比較、現在のつながりにに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史的な課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 結びつく世界 【知識及び技能】 人類が過去をどのように知り、伝えてきたのか理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「近代化」に関して考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題の解決に歴史の学びが必要であることを理解する。	・指導事項 アジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	5
	B 単元 近代ヨーロッパの成立 【知識及び技能】 市民革命により、社会はどう変わったかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から推論する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代と歴史の関連を自覚する。	・指導事項 アメリカ独立革命とフランス革命 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	C 単元 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民化 【知識及び技能】 アジア社会の植民化による欧米・アジア相互の変化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 オスマン帝国の衰退 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	5
	D 単元 中国の開港と日本の開国 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 アヘン戦争と日本開国 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
2 学 期	C 単元 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民化 【知識及び技能】 アジア社会の植民化による欧米・アジア相互の変化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 明治初期の対外関係 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	16
				○	○		1
	D 単元 中国の開港と日本の開国 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 日露戦争と国際関係の変化 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	E 単元 明治維新と日本の立憲体制 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出にアジア諸国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたかを考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 19世紀後半が近代日本の基礎であることを自覚する。	・指導事項 第1次世界大戦 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	5
	F 単元 帝国主義の展開とアジア 【知識及び技能】 列強諸国のアジア分割と日本の対応を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたかを考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 20世紀初頭の日本が世界にどのような影響を与えたかを自覚する。	・指導事項 第2次世界大戦 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

数学科

科目 数学A

教科：数学科

科目：数学A

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～5組

使用教科書：（最新数学A（数研出版））

教科 数学科

の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学A

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、興味・関心を持てるとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1年次に数学Ⅰで学習した集合についての確認、その要素の個数に関して成立する関係について理解させる。また、事象の数え方について、「樹形図」を用いる方法や、順列 nPr や組合わせ nCr の有用性を理解させるとともに、それを適切に活用できるようにする。	【指導事項】 ・場合の数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 確率の意味を理解させる。「場合の数」で習得した内容を用い、確率に関する応用的な問題に取り組めるようにする。具体的には「和事象の確率」「余事象の確率」「独立な試行の確率」「反復試行の確率」「条件付き確率」に関する問題について扱えるようにする。	【指導事項】 ・確率 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 中学時代に学習した図形についての復習と、その応用例の定理について考えさせる。	【指導事項】 ・平面図形 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形の性質 第2節 空間図形 平面図形の応用から空間図形について考察できるようにする。また、多面体の性質についての理解を深めさせる。 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 倍数の判定法について一般的な方法や、素因数分解、最大公約数・最小公倍数についての性質を考えさせる。また、商と余りの関係について理解させ、問題を解く上で活用できるようにする。	【指導事項】 ・空間図形 ・約数と倍数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第3章 整数の性質 第2節 ユークリッドの互除法 ユークリッドの互除法を用いて最大公約数を求められるようにするだけでなく、そのメカニズムを理解し、説明できるようにする。また、互除法の計算を逆にたどることで1次不定方程式の整数解が1つ得られることを理解させる。	【指導事項】 ・ユークリッドの互除法 ・整数の性質の活用 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント	○	○	○	16

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	とを理解させる。		授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る				
	第3節 整数の性質の活用 有理数の小数表現の仕方、n進法へ の変換方法について理解させ、それ を活用できるようにする。						
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

数学科

科目 数学Ⅱ

教科：数学科

科目：数学Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（最新数学Ⅱ（数研出版））

教科 数学科

の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
式と証明、高次方程式、図形と方程式について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	式と証明、高次方程式、図形と方程式について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	式と証明、高次方程式、図形と方程式について、興味・関心をもてるとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	式と証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 整式の乗法・除法と分数式 1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 研究／ $(a+b+c)^n$ の展開式の係数 3 整式の除法 4 分数式の計算 第2節 式と証明 1 恒等式	【関】 ・複雑な式の因数分解に取り組もうとする。 ・恒等式の係数を決定する際に、数値代入法と係数比較法とを比較して、考察しようとする。 【考】 ・整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ・条件式を利用し、等式証明ができる。 【技】 ・分数式の計算の結果を、既約分数式または正式に表すことができる。 ・不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように式変形を考えることができる。 【知】 ・3次の因数分解の公式を理解し、それらを用いて因数分解することができる。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	・式と証明（続） ・複素数と方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	第1章 第2節 2 等式の証明 3 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係	【関】 ・方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 【考】 ・平方根を負の数にまで拡張することができる。 【技】 ・複素数の除法では、分母と共役な複素数を分母と分子に掛ければよいことを理解している。 【知】 ・複素数の四則計算ができる。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・複素数と方程式（続）	第2章 第2節 剰余の定理と因数定理 1 剰余の定理 2 因数定理 3 高次方程式の解法	【関】 ・2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 【考】 ・整式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 【技】 ・対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 【知】 ・解と係数の関係を使って、対称式の値を求めることができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	・図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3章 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直	【関】 ・数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。 【考】 ・直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 【技】 ・2直線の垂直条件を理解していて、それを利用できる。 【知】 ・座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	・図形と方程式(続)	第3章 第2節 円、軌跡と領域 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域	【関】 ・ x, y の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 【考】 ・円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 【技】 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 【知】 ・連立不等式の表す領域を図示することができる。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～5組

使用教科書：（化基710 新編 化学基礎（数研出版））

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。	身近な物質とその変化から問題を見だし、探究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。	物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	序章 化学の特徴 【知識及び技能】 化学変化を利用し、つくられる物質の種類や役割を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 物質のはたらきの有用性を利用し、社会や日常で活用される方法や役割について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・オリエンテーション ・金属やプラスチックなど生活に根付く物質がどのように作られているかに着目し、その利用法や物質にはたらく作用を中心に、興味を持たせる。 教材【教科書】	【知識・技能】 金属・プラスチックの製造や再利用、洗剤や食品添加物の有用性と危険性といった知識について身につけており、物理的性質・化学的性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 物質のはたらきの有用性や危険性を適切な評価に基づき、化学が果たしている役割について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活を支える物質に関心を持ち、化学が社会や生活に果たしている役割について意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	2
	第1編 物質の構成と化学結合 1章 物質の構成 第1節 混合物と純物質 第2節 物質とその成分 第3節 物質の三態と熱運動 【知識及び技能】 物質の分離・精製方法、物質の三態と熱運動について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物質の分離・精製方法や単体や化合物、混合物について考える。 物理変化と化学変化の違いについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 物質の構造や性質、粒子間にはたらく力に関する事象を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・混合物を分離・精製する様々な方法について、実験動画を用いることで、その仕組みと注意点を理解させる。 ・物質が原子からできていることから、物質の構成粒子やその作用について取り扱い、物質の状態によって変わる粒子の在り方をイメージできるよう可視化する。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 混合物の分離・精製に際し、適切な方法を選択することができる。 物質は種々の元素から成り立っており、それらの元素は元素記号を用いて表されることを理解している。 化学的に探究する方法を理解するとともに粒子の熱運動と三態との関係を理解し、物質についての微視的な見方や考え方を身につけている。 【思考・判断・表現】 単体や化合物、混合物の違いについて説明することができる。 同素体とは何かを説明できる。 物質の状態変化から、粒子の熱運動と粒子間に働く力を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構造や性質、粒子に働く力に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	第1編 物質の構成と化学結合 2章 物質の構成粒子 第1節 原子とその構造 第2節 イオン 第3節 元素の周期表 3章 粒子の結合 第1節 イオン結合とイオンからなる物質 第2節 分子と共有結合 【知識及び技能】 原子の構造や電子配置について理解する。 粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・原子の構造について理解するとともに、電子殻と電子配置について理解し、価電子の重要性を認識させる。 ・3章では多くの結合が学習事項としてあり、内容が定着しにくい可能性があることで繰り返し時間をかけることで本学習の定着を図るとともに、結合を含めた結晶の性質などを学ぶ。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 原子の構成粒子について理解している。 金属・非金属元素などの分布および同族元素について理解している。 物質を構成する粒子の結合について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけている。 【思考・判断・表現】 イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小と関連させて考えることができる。 イオン結合、金属結合、共有結合でできた物質について、その性質を結合の種類と関連付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な物質が原子、分子、イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
	第1編 物質の構成と化学結合 3章 粒子の結合 第3節 共有結合の結晶 第4節 金属結合と金属 第2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量	指導事項 ・各結合の性質について学ぶ。 ・原子量・分子量・式量・物質量の概念、考え方を学ぶ。特に物質量は、化学を扱ううえで不可欠な事項であることから、生徒全員に身につけさせる。	【知識・技能】 原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。 物質量と粒子の数、質量、気体の体積を相互に変換できる。 質量パーセント濃度やモル濃度の定義を理解している。				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	第2節 物質量 第3節 溶液の濃度 【知識及び技能】 粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ。 原子量・物質量の概念を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。 モル質量の概念を用い、粒子の数・質量と物質量に関する計算をする。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味・関心を高める。 物質量の概念に興味を持ち、粒子の数・質量・気体の体積の関係について意欲的に学ぶ。	教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【思考・判断・表現】 金属特有の性質が自由電子によるものであることを理解し、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。 物質量を用いた基本的な計算を習得することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 代表的な物質の原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項や、濃度との関係を関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	第2編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 第4節 化学反応式と物質量 2章 酸と塩基の反応 第1節 酸・塩基 第2節 水の電離と水溶液のpH 第3節 中和反応と塩 第4節 中和滴定 【知識及び技能】 物質量や式量等、酸・塩基の定義の知識を学ぶとともに、実験から実験器具の取り扱いができ、表やグラフの作成の完成を目指す。 【思考力、判断力、表現力等】 式量や物質量を化学反応式で表し、化学反応の量的関係を考える。また、中和の量的関係を数式で表せることを、実験により理解させ、計算方法も体得させる。 【学びに向かう力、人間性等】 化学変化や酸・塩基の中和反応を日常生活と関連させることで、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・化学反応式を書くこと、量的な関係を理解できるようにする。 ・中和の量的関係を理解するとともに、滴定操作により未知の濃度の酸や塩基の濃度を求めることができることを実験的に理解させる。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 化学反応式を用いて量的な計算をすることができる。 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解している。 実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を習得している。 【思考・判断・表現】 水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、水酸化物イオン濃度からpHを求めることができる。 酸・塩基の定義を理解し、酸・塩基反応および中和反応を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸、塩基に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	第2編 物質の変化 3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元 第2節 酸化剤と還元剤 第3節 金属の酸化還元反応 第4節 酸化還元反応の利用 【知識及び技能】 イオン化傾向による反応性の違い等から、酸化還元反応を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 酸化還元反応の酸化数等を考え、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活の中にある酸化還元反応に対して関心を持ち、意欲的に学ぶ。	指導事項 ・酸化還元反応における電子のやり取りを可視化するため、酸化数を導入する。同時に金属のイオン化傾向から、電池の原理は酸化還元に基づくものであることを確認する。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、身近に酸化還元反応が利用されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 燃焼、金属の溶解の利用に興味をもち、それらの共通性を身近な現象と関連付けて意欲的に探究する。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教 科： 理科 科 目： 生物基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組 ・ 6組

使用教科書：（ 東京書籍 生物基礎 （生基701） ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・観察、実験などを行い、日常生活や社会から問題を見出し、研究する過程を通して、生物学的に正しく判断し、的確に表現する力を身に付ける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物の多様性 ・生物の多様性は進化の結果、生じたものであることを理解させる。 2節 生物の共通性 ・すべての生物には「細胞からできている」「DNAをもつ」「エネルギーを利用する」「自分と同じ構造をもつ個体をつくる」「体内の状態を一定に保つ」という共通性がみられることを見出させる。 3節 細胞の特徴 ・すべての細胞は細胞膜に包まれた構造とDNAをもつことや、真核細胞は核や複雑な細胞小器官をもち、原核細胞はそれらをもたないこと、生物は細胞の種類で真核生物と原核生物に分けられることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の共通性と多様性について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物とエネルギーを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生体とATP ・生物は、代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ていることを理解させる。 ・生体内でのエネルギーの受け渡しには、ATPが用いられることを理解させる。 2節 生体内の化学反応 ・酵素の主成分はタンパク質で、基質特異性をもつ触媒としてはたらくことを理解させる。 3節 呼吸と光合成 ・呼吸では、酸素を用いて有機物を分解し、化学エネルギーを取り出していることを理解させる。 ・光合成では、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、この化学エネルギーを利用して無機物から有機物を合成していることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物とエネルギーについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考查			○	○		1
	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物と遺伝子 ・生物の形質は、それぞれの生物がもつ遺伝情報によって決まることを理解させる。 ・遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであるということを理解させる。 2節 DNAの構造 ・DNAは、塩基・糖・リン酸からなるヌクレオチドが繰り返し並んでできていることを理解させる。 ・4種類のヌクレオチドのうち特定の塩基どうしが結合して、DNAは二重らせん構造となることを理解させる。 3節 DNAの複製と分配 ・DNAの複製では、複製前の2本の鎖が分離し、それぞれ鋳型となって新しい鎖が合成され2本のDNAになることを理解させる。 ・複製は細胞周期のS期に起こることを理解させる。	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とDNAについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質	1節 タンパク質 ・タンパク質は、生物のさまざまな形質や生命活動にかかわっていることを理解させる。 ・これらのタンパク質の情報は遺伝子によってきめられていることを理解させる。 2節 DNAとタンパク質の合成 ・DNAの遺伝情報をもとにして、転写・翻訳という過程を経て、タンパク質が合成されるということを理解させる。 3節 細胞分化と遺伝子 ・個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解させる。	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達	1節 体内環境 ・細胞を取り巻く環境を体内環境と言い、ヒトの身体は恒常性によって体内環境が維持されていることを理解させる。 2節 神経系による情報伝達 ・神経系は、交感神経及び副交感神経を介した情報伝達により、器官の機能を調節し、体内環境の維持に関わっているということを理解させる。 3節 ホルモンによる情報伝達 ・内分泌系では、ホルモンが標的器官に作用し、各器官を調節することで体内環境を維持しているということを理解させる。 4節 血糖濃度の調節 ・血糖濃度は、自律神経系と内分泌系が強調してはたらくことで調節されているということを理解する。	【知識・技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報の伝達に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				10
2 学 期	定期考査			○	○		1
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき	1 節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらいっていることを理解させる。 2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができるということを理解させる。 3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症するということを理解させる。 ・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。	【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				10
	定期考査			○	○		1
	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移	1 節 植生とその環境 ・植生は多様な環境をつくり、さまざまな生物の営みを支えていることを理解させる。 ・植生による環境形成作用で、光環境や土壌が変化することを理解させる。 2節 植生の遷移 ・植生は常に一定ではなく、生物などのはたらきにより環境が変化すると、優占する植物の種が置き換わっていくことを理解させる。 3節 遷移とバイオーム	【知識・技能】 ・植生と遷移について、植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・植生と遷移について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・植生と遷移に関する事物・現象に進んで関				6

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	・植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	・世界にはさまざまな植生があり、遷移が進みつつも、最終的には気候に応じた植生になることを理解させる。	わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき 【知識及び技能】 ・免疫について、免疫のはたらきのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらいっていることを理解させる。 2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報を記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができるということを理解させる。 3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症するということを理解させる。 ・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。	【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				7
	定期考査						1
							合計 70

科目 体育

单位数： 2 单位

6 組

)

の目標：

基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける

競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする

得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要か何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで) 体育理論	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	5
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○		13
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○		12
2 学期	陸上競技では、個人の目標に向かって基本動作を習得し、記録に挑戦する。 水泳では、基本動作の習得、泳法の習得を目標に展開する。さらに、個人の記録にも挑戦できるように活動する。	陸上競技（ハードル・高跳び） 水泳	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	14
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	16
3 学期	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を目標設定をして走り通す。	陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の組票の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	8
	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
							合計
							75

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数：1

単位

対象学年組：第 2 学年 6 組

使用教科書：（大修館 現代高等学校 保健体育

）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする

【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要か何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで) ニュースポーツ	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践①	【知識・技能】基本的な動作の習得, 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践① ニュースポーツの実践②	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	5
2 学 期	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践②	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	6
	多種多様にあるバラスポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践、体験する。	バラスポーツの実践	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック、理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
3 学 期	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践③	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の組票の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。		【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4
							合計 37

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（大修館書店 現代高等保健体育）

教科 保健 の目標：

【知識及び技能】健康で安全な生活を送るために必要な知識と取り組みを理解させる

【思考力、判断力、表現力等】自分自身の健康と周りの人々の健康について具体的に課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、行動できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】最新の知識をアップデートし、正しい判断と行動ができるようにする

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
交通事故の現状と応急処置の方法、家族計画と妊娠出産のメカニズム、環境問題についての知識と技能を養う。	それぞれの単元の「考えてみよう」のワークを利用し、自己表現ができるようにする。	新しい知識と将来を見据えた問題点を想像し解決する力を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	交通時とその現状 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 交通事故の要因 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 【思考・判断・表現】安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	応急手当の方法 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 応急処置について 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用方法について理解する。	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身につけるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 【主体的に学習に取り組む態度】応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○	○	○	4
	思春期と健康 思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 思春期の健康課題について 思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に取り組む態度】結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
2 学 期	妊娠と出産 受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。	結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	【知識・技能】生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に取り組む態度】結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	○	○	○	3
	家族計画 家族計画の意義について理解する。人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。			○	○	○	3
	加齢と健康 加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。	加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。		○	○	○	3

[illegible]

科目 音樂 I

單位數： 2

使用教科書：（

教科 芸術 音楽 の目標：

【知識及び技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について、理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】音楽の要素や関連を知覚し表現できたり、音楽のよさを感じ取ることができる。

【学びに向かう力、人間性等】音楽や音楽文化と関わり、主体的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

科目 音楽Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の構造とイメージの関わりについて、理解するとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な音楽を形づけている要素の働きを変化させ、演奏する技能を身につける。	メロディを知覚し、その働きを感じながら、どのような音楽を表現し、音楽に対する価値について考え、音楽のよさや美しさを感じながら表現したり聴いたりする。	旋律の変化と雰囲気の変化との関わりに関心を持ち、主体的に創作や鑑賞活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を育み、音楽を愛好する心情を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			歌	器	創							
1 学 期	・発声方法と歌唱表現を身に着け、豊かな表現で歌う。 ・楽譜の読み方・書き方を学び、読譜力・写譜力を身につける。	・ベルカント唱法を基本とした発声練習 ・校歌、独唱曲の表現方法 ・音楽理論 楽譜の正しい読み方、書き方を身につけ、演奏表現に生かすようにする	○			○	観察 課題 学習プリント		○	○	○	8
	・外国語の発音や特徴を理解し、歌詞の内容や曲調にあった表現を身につける。 ・鑑賞をととして音楽の諸要素を理解して音楽のよさを理解する。	芸術歌曲の表現方法、イタリア歌曲の性格を捉え、表現方法について学び歌う。 ・簡単なイタリア語について学び、イタリア音楽について理解し、歴史・言語も学びながら歌う。	○				○	観察 課題 学習プリント				12
	・器楽合奏を通して、曲にふさわしい双方や技術を身につける。	・ギターの正しい奏法を身に着け、演奏の基本を学ぶ。 ・TAB譜を見ながらギター演奏をする。			○		○	観察 課題 学習プリント 筆記試験				14
	・リズム合奏を通してリズムを覚え、いろいろなリズムを理解する。	・音符、休符について理解し、ボディパーカッションなどを通してリズム合奏に親しむ。 様々な打楽器を使ってリズム演奏に親しむ。				○		観察 課題 学習プリント 筆記試験				4
2 学 期	・鑑賞 ミュージカル ・鑑賞 オペラ	オペラとミュージカルの歴史を学びながら、それらの違いについて理解する。 ・ミュージカルの歌を表現豊かに歌う。	○				○	観察 課題 学習プリント				6
	・器楽アンサンブルを通して、曲調や特徴を理解して演奏をする。 ・創作活動を通して作詞・作曲に挑戦する。	・曲調にふさわしい表現になるよう工夫する。 ・音楽の特徴を生かしながらアンサンブルをする。 ・自分がイメージしたものを創意工夫しながら表現できるよう音楽理論を理解したうえで創作活動を行う。	○				○	観察 課題 学習プリント 筆記試験				12
3 学 期	合唱を通して美しいハーモニーを感じながら歌唱する。	・ハーモニーを感じながら合唱する。/ パートに分かれて歌唱練習をする。 ・正しい発声で、歌詞の内容や背景を理解し、情景を思い浮かべながら歌唱できるよう表現を工夫する。	○					観察 課題 学習プリント 筆記試験				14
	伝統音楽の鑑賞を通して、文化的背景や歴史的背景を学ぶ。	・雅楽、能、箏曲、尺八など、様々な日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞しながら伝統音楽への理解を深める。					○	観察 課題				合 計 70

高等学校 令和7年度(2学年)教科

芸術 科目 美術 I

教科: 芸術

科目: 美術 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 5 組～ 6 組

使用教科書: (『高校生の美術I』(日本文教出版))

教科 芸術

の目標:

【知識及び技能】 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に取り組む。

【思考力、判断力、表現力等】 感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。

【学びに向かう力、人間性等】 美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組

科目 美術 I

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に取り組む。	感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見つめ、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。	美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
学	●美術 I 授業の注意 ・約束事や注意点、授業予定を理解する。	・座席決め。 ・授業時の決まりと授業計画、注意点を理解する。	○		○	○	・安全に留意して道具を扱えたか。 ・ワークシート上に規則的で美しい明暗階調を作成できたか。 ・意欲的に取り組んだか。 ・描画材の特徴を理解し、表現する力を高められたか。	○	○	○	1
	●鉛筆素描「手を描く」 ・鉛筆素描の基礎を学ぶ。 ・画用紙の特徴と取り扱いを確認する。 ・描写するものに合った構図や、形の捉え方を理解する。 ・空間表現や光の設定を意識し、立体感・質感の表現を工夫する。完成度を高める。	・画用紙の裏表、凹凸を理解。 ・自分の手の状況と伝えたい表情や手そのものの大きさが伝わるような構図を考える。 ・形態、バランスを観察。・輪郭だけではなく中の形、光と影を意識する。 ・輪郭だけではなく中の形、光と影を意識する。 ・立体感、質感が出てくるように工夫する。 ・時々客観的な視点で眺め完成度を上げていく。	○	○		○	・より良い作品を作るために試行錯誤を重ねることができたか。 ・意欲的で粘り強い制作態度が養われたか。	○	○	○	11
	●デザイン基礎「平面構成」 ・アクリルガッシュとその使用方法を理解する。 ・幾何構成の要点について理解する。 ・四季の一つを主題に選び、その印象に合うよう画面配分や配色を工夫する。彩色の注意点を理解する。 ・彩色の注意点を理解する。	・アクリルガッシュの特性を理解する。 ・「季節」が主題。A4ワークシート枠内を1つの円(円弧)と1本の直線、1本の自由曲線で分割し分割された面を彩色する。 ・マンセル色相環を学ぶ。 ・明度、色相、彩度について理解する。	○	○		○	・アクリルガッシュの特徴を理解し、美しく塗ることができたか。 ・制約の中で工夫して、各自の季節のイメージを構成できたか。 ・意欲的に取り組んだか。	○	○	○	10
	●「河川の愛護月間」絵手紙 ・身近な生活を振り返り、日常生活の中で河川に関わる思い出を表現する。 ・河川愛護月間7月1日～7月31日 ・河川愛護意識の高揚を図る。	・絵手紙の表現技法を理解する。 ・日常生活の中でドラマを感じ、絵と書でまとめることができる。 ・垂らし込み、ぼかし、にじみ、の技法を理解する。 ・文字と絵との構図バランスを考える。 ・河川愛護月間の応募規定に沿った作品制作を行う。 ・応募上の注意を理解する。 ・応募した作品は、国土交通省に帰属する。	○	○		○	・構図を意識した作品制作ができる。 ・絵の具の特性を生かした表現方法ができる。 ・日常生活の雰囲気をとらえ、河川との関りをいきいきと絵手紙に表現することができる。 ・「河川愛護月間」絵手紙募集の主旨に沿った作品が制作できる ・粘り強く試行錯誤を重ねることができたか。	○	○	○	10
2 学 期	●陶芸スクラッチ皿「食卓を豊かにするいきもの」 ・前課題や鉛筆素描の白黒の表現を踏まえ、円形の皿に合ったデザインを考えアイデアスケッチを描く。 ・道具、技法について理解する。 ・世界で一つしかない絵皿を道具各種で削って制作する。	・どのような場所、時間にどのような人が使用するかを考慮し、食卓を豊かにするための工芸作品としての制作を意識する。 ・円形で平らではないこと、釉薬を削り取って図柄を表現していくことを理解する。 ・選んだモチーフを円の中にどのように配置、構成していくかスケッチを重ねて練り上げていく。 ・下絵を丁寧に描き、皿に転写する。・ニードルや竹串、割り箸などで白くしたい部分の釉薬を削り取っていく。・後日800度で焼成(業者に依頼)。	○	○		○	・既製品のお皿でなく、自分がデザインできることに興味を持ち、意欲的に制作できたか。 ・削り方を工夫して奥深い表現ができたか。 ・実際に使ってみることを想定して発送できたか。 ・関心を持って根気強く取り組んだか。	○	○	○	18
	●樹脂粘土による彫刻制作 ・自由に発想したアイデアを平面から立体にアウトプットできる造形力、表現力を養う。 ・やらかい粘土を成形/乾燥/接着/着色へと順序立て計画的に進める。 ・彫刻ならではの360度違う表情を楽しむ。	・アイデアに従った制作プランの立案、芯材制作、塑像技法、道具等を使った表現方法、立体への着色方法。 ・作品鑑賞	○	○	○	○	・紙粘土の特性を活かした造形表現が出来ているか。 ・自由に発想したアイデアを立体作品として実現するための工夫ができたか。 ・彫刻、立体作品に興味を持ち意欲的に取り組めたか。	○	○	○	10
	●ペンで表すモノクロームの世界 ・鉛筆の描写とは違うペンによる白黒の表現技法を習得する。白黒による表現の多様性を理解する。 ・形の省略や強調を考え、立体感や空間を工夫して表現する。	・線や点を重ねたり、余白を活かして画面を構成するペン画ならではの技法を理解する。 ・どのような情景や主題をどのように表現するのか試行錯誤し、画面を構成していく。 ・丁寧に線や点を重ねていき、密度のある画面に仕上げる。	○			○	・ペンの扱い方を習得し、効果的に使えているか。 ・白と黒という制約の中で自由に発想し構想を練り、ペンの使い方を工夫し、独自の表現ができたか。 ・課題に興味を持ち、粘り強く取り組んだか。 ・課題に興味を持ち、粘り強く取り組んだか。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教科：芸術 科目：書道Ⅰ 単位数：2 単位
 対象学年組：第 2 学年 5 組 ～ 6 組
 使用教科書：（ 光村図書 「書Ⅰ」 ）

教科 芸術 の目標：
 【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
			漢	仮	漢	仮					
1 学 期	単元「書写から書道へ」 ◎小・中学校国語科書写で学習した、基本的な知識・技能を確認させる。 単元「様々な書体の変遷、臨書とは」 ◎古典の臨書を通して技法を学び、表現に生かす学習方法について理解させる。	①筆使い、筆順、字形、配列など小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。 ②漢字には五つの書体があること、それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。			○	○	【知識・技能】書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。	○		○	8
	「文字の造形を学ぶ【楷書】」 単元「あなたは、どの楷書が好き？」 ◎日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。	①A～Dのグループの文字を比較し、自分が好きなものを選ぶ。 ②その文字を選んだ理由や受ける印象を自由に話し合う。 ③選んだ文字ごとにグループを作り、自分が受けた印象は、文字を形成するどの要素から感じ取れるかを話し合う。			○	○	【知識・技能】日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷について理解している。 【思考・判断・表現】漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	単元「唐の四大家に学ぶ楷書の基本」 ◎楷書の古典「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」「牛橛造像記」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①唐の四大家の人物や政治的立場など、その人物像を理解する。 ②初唐の三大家と太宗の関係について理解する。 ③唐の四大家の代表作を知り、書道史において果たした役割や位置づけに関連づけて理解する。			○	○	【知識・技能】楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	文字の造形を学ぶ【行書】 ◎行書の古典「蘭亭序」「争坐位文稿」「蜀素帖」「風信帖」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①行書の成立過程や通行書体としての性質を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 ②「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取る。			○	○	【知識・技能】行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	文字の造形を学ぶ【草書／隷書／篆書】 ◎草書、隷書、篆書の古典「真草千字文」「曹全碑」「泰山刻石」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①草書／隷書／篆書の成立過程や通行書体としての性質を再確認する。 ②それぞれの古典が作られた経緯や書風について理解する。 ③学習のめあてと、成立・特徴を確認し、観賞・臨書を通し、点画や線質の特徴を理解する。			○	○	【知識・技能】草書・隷書・篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】草書・隷書・篆書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字の創作 古典を生かした創作 ◎漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。	①創作の手順を理解し、書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ②これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ③試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。			○	○	【知識・技能】漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学 期	単元「仮名の成立と種類、仮名の筆使い」「平仮名」「変体仮名」 ◎仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 仮名の古筆「蓬萊切」「高野切第三種」にて書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 ②臨書する部分を観察し、意連・形連のしかたや筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認する。伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。			○	○	【知識・技能】線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	漢字仮名交じりの書 好きな言葉を書こう ◎漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。	①漢字仮名交じり創作の手順を理解し、表現のイメージを明確にもつ。 ②これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ③試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	○			○	【知識・技能】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。 【思考・判断・表現】創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10 合 計 70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書： （ 数研出版 COMET English Communication II ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	「 」 話	発 言	話 書					
1 学 期	Lesson1 Places Worth Visiting Lesson2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer 【知識及び技能】 「行きたい場所」を表現するとき に使える基本的な単語を理解してい る。また、want+人+to doやask+人 +to doの用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめ て話すことができる。 ・「行きたい場所」「自分の好きな 写真」について英語で書き、発表す ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「行きたい場所」について関心を 持ち、積極的に発言したり聞こうと したりしている。 ・岩合光昭さんの考え方や、写真に ついて関心を持ち、積極的に発言し たり聞こうとしたりしている。	・指導事項 want+人+to do 疑問詞+ to不定詞 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話 すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分 の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 「want+人+ to do」「疑問詞+to不定 詞」を用いて、正しい文を書くことがで きた。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「様々な名所」「写真」について関心 を持ち、積極的に発言しようとした り、聞こうとしたりした。	○	○	○	24
	定期考査								○	○	○	1
	Lesson3 The Haka Lesson4 Digital Detox 【知識及び技能】 ・世界の文化に関する単語を理解し ている。また、分詞の用法を理解し ている。 ・デジタル機器に関する単語を理解 している、またif節・疑問詞節の用 法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめ て話すことができる。 ・「世界の文化」「デジタル機器と の関わり方」について英語で書き、 発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「世界の文化」「デジタル機器」 について関心を持ち、積極的に発言 したり聞こうとしたり、自分の考え を持つことができる。	・指導事項 分詞 if節・疑問詞節 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話 すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分 の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 「分詞」「if節・疑問詞節」を用い て、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 「写真」「世界の文化」について関心 を持ち、積極的に発言しようとした り、聞こうとしたりした。	○	○	○	27
	定期考査								○	○	○	1

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

外国語 科目 論理・表現Ⅰ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組～ 6 組

使用教科書：（ 開隆堂 APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅠ ）

教科 外国語 の目標：
【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 論理・表現Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「や 」	話 「発 」	書					
1 学 期	単元 Lesson 1. 2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な出来事や、自分の考えなどを整理して、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手の話す内容にきちんと耳を傾けたりしている。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・自己紹介など場面に応じた特有の言い回しができる。 ・さまざまな時制の違いとその表現を理解している。 ・あこがれの人について、わかりやすく的確に紹介できる。	○	○	○	12
	定期考査								○	○	○	1
	単元 Lesson3. 4. 5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、経験や好きなものについての紹介を伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グループでの話し合いを通して自分たちの考えをまとめ、それを積極的に伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・助動詞を正しく理解し多彩な表現ができる。 ・完了形と過去形の違いを理解し、使い分けができる。 ・能動態と受動態の使い分けを意識して表現することができる。	○	○	○	14
	定期考査								○	○	○	1
2 学 期	単元 Lesson6. 7. 8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育成、動名詞とto不定詞の名詞的用法を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を正しく理解している。 ・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を用いて積極的に表現できる。	○	○	○	14
	定期考査								○	○	○	1
	単元 Lesson9. 10. 11 【知識及び技能】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 【思考力、判断力、表現力等】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・現在分詞・関係代名詞・to不定詞を正しく理解している。 ・現在分詞・関係代名詞・to不定詞を用いて積極的に表現できる。	○	○	○	14

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

外国語 科目 論理・表現Ⅰ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ 開隆堂 APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅠ ）

教科 外国語 の目標：
【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 論理・表現Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「や 」	話 「発 」	書					
1 学 期	単元 Lesson 1. 2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な出来事や、自分の考えなどを整理して、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手の話す内容にきちんと耳を傾けたりしている。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・自己紹介など場面に応じた特有の言い回しができる。 ・さまざまな時制の違いとその表現を理解している。 ・あこがれの人について、わかりやすく的確に紹介できる。	○	○	○	12
									○	○	○	
	単元 Lesson3. 4. 5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、経験や好きなものについての紹介を伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グループでの話し合いを通して自分たちの考えをまとめ、それを積極的に伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・助動詞を正しく理解し多彩な表現ができる。 ・完了形と過去形の違いを理解し、使い分けができる。 ・能動態と受動態の使い分けを意識して表現することができる。	○	○	○	14
2 学 期	定期考査								○	○	○	1
	単元 Lesson6. 7. 8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育成、動名詞とto不定詞の名詞的用法を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を正しく理解している。 ・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を用いて積極的に表現できる。	○	○	○	14
	定期考査								○	○	○	
2 学 期	単元 Lesson9. 10. 11 【知識及び技能】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 【思考力、判断力、表現力等】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・現在分詞・関係代名詞・to不定詞を正しく理解している。 ・現在分詞・関係代名詞・to不定詞を用いて積極的に表現できる。	○	○	○	16

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 情報 科目 必修選択情報

教科：情報 科目：必修選択情報 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～4組
 使用教科書：（図説 情報Ⅰ 実教出版）

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 必修選択情報 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。協働的な学びを通し、思考力や判断力を身に付け問題解決に生かす。	情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●進路について、情報デザイン（オリエンテーション含む） 【知識及び技能】 自身の進路について考えている 情報デザインについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを、将来の展望にからめ表現できる 文化祭ポスターの作成を多角的な視点で表現している 【学びに向かう力、人間性等】 与えられた課題に取り組み、提出期限を守っている 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 探究活動の導入として、自己の進路及び自己分析を行い、自身の強みを発見する 文化祭のポスターの公募に全員応募できるよう、ソフトウェアを用い、作品を作る ・教材 Teamsアカウント紐づけソフト ・CALL教室内PC	【知識・技能】 ワークシート 実習 【思考・判断・表現】 ワークシート及びポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ワークシート及びポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	8
	●探究活動（個人及びグループ） 【知識及び技能】 探究活動のスパイラルを理解する 与えられた課題について、疑問をもち、解決の道筋をたてる 【思考力、判断力、表現力等】 何故の問いについて、根拠をもとに個人または他者と意見交換しながらまとめている 分かりやすい内容、デザインを工夫している 【学びに向かう力、人間性等】 自らの知識や参考文献、データで根拠を基に解決に向かっていく 与えられた時間で適切に発表している 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 探究活動の充実 ・教材 食品成分表の課題 企業2社の問い ・CALL教室のPC 一人1台端末の活用	【知識・技能】 ワークシート 実習 【思考・判断・表現】 ワークシート及びポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ワークシート及びポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	18
2 学 期	●オフィスソフトの活用 【知識及び技能】 1年次の実習の内容を理解している 与えられた課題について、例題を基に解決しようとしている 【思考力、判断力、表現力等】 対話型AI等の活用し、解決のヒントを得ながら解決に向かう 他者と協力しながら解決に向かう 【学びに向かう力、人間性等】 期限を守り、課題に取り組んでいる 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 オフィスソフトの応用 ・教材 公文書のルールと作成 エクセル実習応用（関数） パワーポイント録画機能	【知識・技能】 実習 【思考・判断・表現】 ポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	14
	●アンケート調査（グループ学習） 【知識及び技能】 自らの系に関連した疑問を発見することができる 【思考力、判断力、表現力等】 自らの問いを他者に具体的に説明し、意見交換を行うことができる	・指導事項 幼児教育・保育系、栄養・健康系でグループを作り、系に関連したアンケートを作成、全学年に調査し、分析し考察を全学年に還元する ・教材	【知識・技能】 実習 【思考・判断・表現】 ポートフォリオ 実習 協同的な学び 【主体的に学習に取り組む態度】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	問いに対して、様々なツールを活用し分析等を行うことができる 【学びに向かう力、人間性】 他者と協力し、解決に向かう 振り返りをしっかり行っている	※3学期にも継続して実施	発問・発表 ポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	18
3 学 期	●プログラミング 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 外部教材の指示に従い、与えられた課題について、適切に行っていることと、振り返り等のテストを行っている	・教材 外部教材により、進捗等をみとる P 検等の検定試験にチャレンジする	【知識・技能】 実習状況 【思考・判断・表現】 実習状況 【主体的に学習に取り組む態度】 実習状況 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	10
	まとめ	年間のまとめ 自らの変容等をまとめる	【知識・技能】 ポートフォリオ 【思考・判断・表現】 ポートフォリオ 【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りフォーム（電子）			○	2
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

家庭

科目 課題研究

教科： 家庭

科目： 課題研究

単位数：

単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ なし ）

教科 家庭

の目標：

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 課題研究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を発見し、解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	オリエンテーション 課題（テーマ）の設定 ①個人で身近な事例から調査研究を行い、課題を見つける。それに対する解決策を考える。 ②グループで課題と解決策をまとめ、パワーポイントを用いて発表する。 【知識及び技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの将来につながる課題を設定する。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立てて、わかりやすくまとめる。社会のニーズを考慮し、適切なテーマ設定ができる。 課題をまとめ、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・1年間の授業の流れ ・課題研究の進め方（例：記録を取る等） ・課題の設定 ・課題解決に向けての計画 ・実施 ・一人一台端末の活用指導事項	【知識・技能】 ・課題研究の進め方について理解し、自らの将来につながる課題を設定できる。 【思考・判断・表現】 ・設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、分かりやすくまとめることができる。 ・社会のニーズを考慮し、適切なテーマが設定ができる。 ・課題をまとめ、発表することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を換え決するために、自ら学び、生活の発展や、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	28
2 学 期	ゼミ形式でグループ毎の課題（テーマ）に分かれての課題研究、中間発表 ①子ども食堂②SDG's③劇団④保育士養成⑤災害時の子どもの心理⑥ベビー用品開発⑦発酵食品を用いた商品開発⑧薬膳⑨食育マスター 【知識及び技能】 課題解決に向けた学びを深める。 【思考力、判断力、表現力】 実施する中で定期的に計画を見直し、新たな計画を設定する。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・グループテーマの課題解決に向けての実施 ・課題研究中間発表会 ・一人一台端末の活用	・ゼミ形式でグループ毎の課題（テーマ）に分かれての課題研究 ・個人の課題解決に向けても取り組みを行う。 【知識及び技能】 課題解決に向けた学びを深められている。 【思考力、判断力、表現力】 実施する中で定期的に計画を見直し、新たな計画を設定し、実施することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 グループの発表でわかりやすい資料をまとめ、発表をすることができる。	○	○	○	24
3 学 期	研究成果のまとめと発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめかた、わかりやすいプレゼンの方法を学ぶ。 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて他者に伝わりやすくまとめる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめる、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげる姿勢を養う。	・グループテーマの課題解決に向けての実施 ・レポートA4 10枚 ・課題研究発表準備 ・課題研究のまとめ、発表 ・一人一台端末の活用	研究成果のまとめと発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめかた、わかりやすいプレゼンの方法を学んでいる。 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて他者に伝わりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめる、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげている。	○	○	○	17
							合計

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
							70

家庭 科目 保育基礎

教 科： 家庭

科 目： 保育基礎

单位数： 4 单位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ 保育基礎

)

教科 家庭

の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

【 知 識 及 び 技 能 】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 保育基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 子どもの保育 ・保育の意義、方法、環境 【知識及び技能】 保育の意義、方法、環境及び乳幼児の発達について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術、技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 子どもの発達を支えることの意義、環境、方法について理解し、実践として生かすことができる。 【思考・判断・表現】 子どもの発達を支えることの意義、環境、方法について情報を分析し、レポート等によりわかりやすくまとめることができる。	○	○	○	26
	B 子どもの発達 ・子どもの発達の特性、乳児期の発達、幼児期の発達 【知識及び技能】 保育の意義、方法、環境及び乳幼児の発達について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術、技能を身につける。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 子どもの発達を支えることの意義、環境、方法について理解し、実践として生かすことができる。 【思考・判断・表現】 子どもの発達を支えることの意義、環境、方法について情報を分析し、レポート等によりわかりやすくまとめることができる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
2 学 期	C 子どもの生活と養護 子どもの生活と養護 生活習慣の形成 健康管理と事故防止 【知識及び技能】 子どもの健全な発達を支えるための社会の取り組み、地域社会の在り方を知る	・子どもの生活と養護 基本的生活習慣と健康管理	【知識及び技能】 子どもの健全な発達を支えるための社会や環境について および 保育の場としての家庭や幼稚園、保育所などの特徴と役割を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもを取り巻く環境について課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に考えることができる。	○	○	○	30
	D 子どもの福祉 児童福祉の理念と関係法規・制度・子育て支援 【知識及び技能】 子どもの健全な発達を支えるための社会の取り組み、地域社会の在り方を知る 【思考力、判断力、表現力等】	・子どもの福祉 児童福祉の理念と関係法規・制度・子育て支援	【知識及び技能】 子どもの健全な発達を支えるための社会や環境について および 保育の場としての家庭や幼稚園、保育所などの特徴と役割を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもを取り巻く環境について課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に考えることができる。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
3 学 期	E 子どもの文化 ・子どもの遊びと文化の継承 【知識・技能】 子どもの目の見え方、興味を引く形、色などについて得た知識を実践に生かすことができる。 子どもの文化、遊びと表現活動について理解できる。 【思考・判断・表現】 これまでの学びと技術を統合し、子どもが主体的に学習に取り組む態度	・造形表現技術を生かした製作	【知識・技能】 子どもの目の見え方、興味を引く形、色などについて知識を得る。 【思考・判断・表現】 これまでの学びと技術を統合し、子どもの興味・関心を引き、共に楽しめる作品をデザインし、作成することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学びを統合し、主体的に作品製作に取り組んでいる。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
							合計 140

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 家庭 科目 生活と福祉

教科：家庭 科目：生活と福祉 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～4組
 使用教科書：（生活と福祉）

教科 家庭 の目標：生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加齢・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
学 1 年	健康と生活 【知識及び技能】 各ライフステージにおける健康課題や目標を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 各ライフステージの特徴を理解し、将来に生かす方法を考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、健康と生活について視野を広げ、実践しようとしている。	健康に関する諸概念 ライフステージと健康管理 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	10
	高齢者の自立支援 【知識及び技能】 高齢者の自立支援の基本的な考え方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 実生活の中での自立支援を理解し、活用することができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、自立支援について視野を広げ、実践しようとしている	社会福祉の理念と概念 ノーマライゼーションと ソーシャルインクルージョン 社会福祉を学ぶ意義 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	6
	介護の実習 【知識及び技能】 基本的な介助技術習得する 【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的配慮をすることができる 【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている	バイタルサイン 車いすの移乗・移動の介護 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学 期	少子高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 日本の少子高齢化の変化について理解する。家族関係の変化について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 高齢化の現状や世帯構成の変化の背景を理解し、実情に即した福祉サービスを考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、少子高齢化の現状について視野を広げ、実践しようとしている	少子高齢化の現状 家族・地域の変化 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	10
	高齢者支援の法律と制度 【知識及び技能】 日本の社会保障・社会福祉制度を構成する四つの領域について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 具体的制度について理解し、その必要性とあり方について考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、自立支援について視野を広げ、実践しようとしている	社会保障・社会福祉制度のしくみ 地域共生社会 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	8
	介護の実習 【知識及び技能】 基本的な介助技術を習得する	食事の介助 災害時の介護	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的配慮をすることができる 【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている	教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
3 学 期	介護の実習 【知識及び技能】 基本的な介助技術を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的配慮をすることができる 【学びに向かう力、人間性等】	食事の介助 災害時の介護 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート	○	○	○	8
	生活支援 【知識及び技能】 福祉分野におけるレクリエーションの意義を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 場面に適したレクリエーション活動を考え、表現することができる 【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている	レクリエーション 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
					○	○	

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教 科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組（保育・栄養科 栄養系）

使用教科書：（（教育図書） フードデザイン Food Changes LIFE ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●第1章 健康と食生活 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 【知識及び技能】 ・食事の意義と役割について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	●指導事項 「健康と食生活」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・食事の意義と役割及び我が国の食生活の現状について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	10
	定期試験			○	○		1
	●第2章 栄養素と食品 栄養素の働き 健康に必要な栄養素 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	●指導事項 「栄養素と食品」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	10
	定期試験			○	○		1
2 学 期	●第3章 食品の選択と取扱い 食品の特徴 食品加工の目的 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	●指導事項 「食品の選択と取扱い」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（行動観察）	○	○	○	20
	定期試験			○	○		1
	●第4章 調理してみよう 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。	●指導事項 「調理してみよう」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	●第5章 各国料理とコーディネート ●第6章 食育と食育推進活動 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。 定期考査	●指導事項 「各国料理とコーディネート」 「食育と食育推進活動」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	15
				○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教 科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組（保育・栄養科 保育系（必選））

使用教科書：（（教育図書） フードデザイン Food Changes LIFE ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●第1章 健康と食生活 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 【知識及び技能】 ・食事の意義と役割について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	●指導事項 「健康と食生活」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・食事の意義と役割及び我が国の食生活の現状について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	10
	定期試験			○	○		1
	●第2章 栄養素と食品 栄養素の働き 健康に必要な栄養素 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	●指導事項 「栄養素と食品」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	10
	定期試験			○	○		1
2 学 期	●第3章 食品の選択と取扱い 食品の特徴 食品加工の目的 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	●指導事項 「食品の選択と取扱い」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（行動観察）	○	○	○	20
	定期試験			○	○		1
	●第4章 調理してみよう 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。	●指導事項 「調理してみよう」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	●第5章 各国料理とコーディネート ●第6章 食育と食育推進活動 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。 定期考査	●指導事項 「各国料理とコーディネート」 「食育と食育推進活動」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	15
				○	○		1
							合計
							70

科目 食文化

单位数： 2 单位

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第2章 日本の食文化 第3節行事食と郷土料理 【知識及び技能】 日常食、行事食、郷土料理の文化的、歴史的な側面や発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・日本の食文化 日常食、行事食について 郷土料理について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	第1章 食と文化 第1節食文化の成り立ち 第2節多様な食文化 【知識及び技能】 気候や風土などの自然環境や宗教、風俗・習慣などとの関わりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・食文化の成り立ち ・多様な食文化とその背景について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	第2章 日本の食文化 第1節日本の食文化史 第2節日本料理と食文化 【知識及び技能】 日常食、行事食、郷土料理の文化的、歴史的な側面や発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・食文化の共通化や国際化 世界の主な食文化圏について 主食、調理方法、宗教と食物禁忌について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	第3章 世界の料理と食文化 第1節西洋料理の食文化 第2節中国料理と食文化 【知識及び技能】 主な食文化圏とその料理の特徴や食のグローバル化による食生活の変容について理解に関連する技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】	・世界の食文化圏や料理様式について ・西洋料理、中華料理について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表、実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学期	第3章 世界の料理と食文化 第3節その他の国の料理と食文化 【知識及び技能】 歴史と食文化圏の関わりやグローバル化の進展に伴う料理や食文化の変化について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・世界の様々な料理、食材料、料理・料理様式、食事作法について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
							合計 70

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用）教科		家庭	科目	栄養
教科：家庭	科目：栄養	単位数：2	単位	
対象学年組：第2学年1組～4組				
使用教科書：（実教出版 栄養）				
教科 家庭	の目標：家庭生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。 【知識及び技能】家庭生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】家庭生活に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
科目 栄養	の目標：家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。			

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 栄養とは 【知識・技能】 栄養に関する分野について、理解する。 【思考・判断・表現】 既習内容を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深めている。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養に関する分野について、学習指導要領に即した内容を理解できているか。 【思考・判断・表現】 既習内容を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	5
	B 栄養素の機能と代謝 【知識及び技能】 栄養素の代謝を理解する。 【思考・判断・表現】 代謝についてその原理を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深めている。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養素の代謝を理解出来ているか。 振り返り（小テスト）を行う。 【思考・判断・表現】 代謝についてその原理を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	C 食欲と消化・吸収 【知識及び技能】 消化吸収について、理解する。 【思考・判断・表現】 消化吸収について、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 調査とレポートで学びを深める。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 消化吸収について、理解できているか。 【思考・判断・表現】 消化吸収について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 調査とレポートで学びを深められたか。	○	○	○	10
	D 食事摂取基準 【知識及び技能】 4群法の正しい理解する。 1日に必要な食品の目測ができる。 【思考・判断・表現】 食事摂取基準を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 献立の評価と改善に取り組む。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 4群法の正しい理解ができているか。 1日に必要な食品の目測ができるか。 【思考・判断・表現】 食事摂取基準を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 献立の評価と改善に取り組めたか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	E ライフステージと栄養 【知識・技能】 乳幼児栄養、青年期栄養、高齢者栄養の特徴を知り、ライフステージと栄養について理解する。 【思考・判断・表現】 課題を設定して調査研究ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深める。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ライフステージと栄養について理解したか。 【思考・判断・表現】 課題を設定して調査研究ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	10
	F 病状と栄養 【知識・技能】 栄養障害、病態時の栄養、食事療法について正しく理解する。 【思考・判断・表現】 適切な課題学習のテーマを設定できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決を目的とし挑戦できる。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 正しく理解できているか。 【思考・判断・表現】 適切な課題学習のテーマを設定できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決を目的とし挑戦できたか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期		・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 食品の特性を理解できたか。 【思考・判断・表現】 実験の目的を理解し、結果や考察を示せるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 体験学習に積極的に取り組めたか。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
						合計	70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

家庭

科目 子供と体育

教科： 家庭

科目： 子供と体育

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ なし ）

教科 家庭

の目標：生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し

よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【知識及び技能】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 子供と体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	仲間づくり 運動遊び 【知識及び技能】仲間づくりに活用できる活動や年齢に応じた活動についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】年齢に応じた身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・オリエンテーション ・仲間づくりの運動遊び ・からだを使った運動遊び	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	12
	運動遊び 保育活動のための道具製作 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動や身近な道具を保育活動へ活用する方法及びその指導についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】年齢に応じた身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・身近にあるものを使った運動 ・道具（手具）を使った運動	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、道具製作の工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	13
	定期考査		実技（身体表現）	○	○		1
2 学 期	運動遊び 保育活動のための道具製作 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動や身近な道具を保育活動へ活用する方法及びその指導についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】リトミックを活用した身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・身近にあるものを使った運動 ・道具（手具）を使った運動 ・リトミック	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、道具製作の工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	15
	運動遊び 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】リトミックを活用した身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・道具（手具）を使った運動 ・リトミック ・運動遊びの創作	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、子どもが活動しやすい運動遊びの創作工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	14
	定期考査		実技（リトミック）	○	○		1
	運動遊び 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】リトミックを活用した身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・道具（手具）を使った運動 ・リトミック ・運動遊びの創作と発表、体験	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、子どもが活動しやすい運動遊びの創作工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加				

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

家庭

科目 子供と音楽

教科： 家庭

科目： 子供と音楽

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（ なし ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】生活に必要な知識と技術を得得する。

【思考力、判断力、表現力等】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。

【学びに向かう力、人間性等】男女が主体的に家庭や地域の生活を想像する能力と実践的な態度を育てる。

科目 子供と音楽

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ピアノやその他の楽器を用いた伴奏や歌唱など保育を担う職業人としての知識及び技術を身に付ける。	子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につける。	子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、全国高等学校家庭科技術検定保育検定に3級を受験する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい楽器の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフエージュ（聴音）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるよ	○	○	○	14
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽		【知識・技能】歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来	○	○	○	14
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	1
2 学 期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしいピアノの使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフエージュ（聴音）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるよ	○	○	○	16
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音		【知識・技能】歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるよ	○	○	○	16
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	1
3 学 期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしいピアノの使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフエージュ（聴音）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるよ	○	○	○	6
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。		【知識・技能】歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるよ	○	○	○	6
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	2 合計 70

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 課題研究
 教 科： 家庭 科 目： 課題研究 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 5 組
 使用教科書：（ ）
 教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養
【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上
と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに相互に関連付けられた技術を身につけるようにする	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 調理

教 科： 家庭 科 目： 調理 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組

使用教科書：（ 全国調理師養成施設協会 5 調理実習 レシピ集 ）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 調理 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	中国料理（湯） 【知識及び技能】 地域や種類により湯の取り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理で使用する調味料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中華包丁を安全に使用し、中国料理の火の使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式	中国料理 【知識・技能】 四川料理の湯の取り方を理解している 【思考・判断・表現】 中国料理で使う調味料の作り方を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中華包丁を適切に取り扱い、安全に使用することが出来る	○	○	○	9
	西洋料理（ブイヨン） 【知識及び技能】 基本となるブイヨンの取り方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する香辛料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 牛刀を安全に使用し、ペティナイフの使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 フォン・ド・ボライユの取り方を理解している 【思考・判断・表現】 香辛料の種類と名称を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 牛刀とペティナイフを安全に扱える	○	○	○	9
	中国料理（炒） 【知識及び技能】 炒という技法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 火力を調節し、すべてが強火でないことを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 鍋振りの方法を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 中華鍋を正しく扱い、適切に炒めることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 「炒」を行う際、鍋振りができる	○	○	○	9
	西洋料理（肉） 【知識及び技能】 ポワレとソテーの違いを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 肉の火の入れ方を理解し、中心が生にならない焼き方を知る 【学びに向かう力、人間性等】 食材には生で食べられるもの（サラダ）と、食べられないもの（肉）があるのを理解し、衛生観念を深める	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 フライパンを正しく扱い、ポワレとソテーの違いを理解し、豚肉、鶏肉の扱い方と焼き加減を確認し判断することが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 肉を扱うまな板、布巾、包丁を使い分けることが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		4
	中国料理（前菜） 【知識及び技能】 中国料理の前菜の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理の献立構成を理解し、献立の順番を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理の前菜にはどのような種類があるか説明することが出来る 【思考・判断・表現】 中国料理の献立構成を理解し、献立を順番に組み立てることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解している	○	○	○	10
	西洋料理（オードブル） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る 西洋料理のオードブルの位置づけを理解している 【思考・判断・表現】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
2 学 期	オードブルにはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る		オードブル種類を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類理解している	○	○	○	10
	中国料理（油烹法） 【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識が身に付いている」 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	10
	西洋料理（ポタージュ） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解している	○	○	○	10
	定期考査			○	○		4
3 学 期	中国料理（蒸烹法） 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法を用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識が身に付いている」 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	9
	西洋料理（ポワゾン） 【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解している	○	○	○	8
	定期考査			○	○		4
							合計
							105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

家庭

科目 食品衛生

教科： 家庭

科目： 食品衛生

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組

使用教科書：（

）

教科 家庭

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食品衛生

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、

安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食生活の安全と食品衛生対策について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食品衛生に関する課題を発見し、安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	安全で衛生的な食生活の実現を目指して自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	・調理師と食の安全の関わり ・食品衛生に関するポスター制作	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	・微生物の種類と特徴 ・調理従事者の健康管理	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		2
2 学 期	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・細菌性食中毒の種類と特徴 ・細菌性食中毒の予防	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をしようとしている。	○	○	○	6
	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】	・ウイルス性食中毒の種類と特徴 ・ウイルス性食中毒の予防	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 ウイルス性食中毒について学び、主体的にそのを予防しようとしている。	○	○	○	6

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	ウイルス性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。						
	定期考査			○	○		2
3 学 期	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・自然毒食中毒の種類と特徴 ・自然毒食中毒の予防	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	○	4
	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・化学性食中毒の種類と特徴 ・化学性食中毒の予防	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

高等学校 令和7年度（2 学年用）

教科 家庭 科目 調理

教 科： 教科 家庭 科 目： 調理

単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組

使用教科書：（ 全国調理師養成施設協会 5 調理実習 レシピ集 ）

教科 教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 調理 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	中国料理（湯） 【知識及び技能】 地域や種類により湯の取り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理で使用する調味料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中華包丁を安全に使用し、中国料理の火の使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式	中国料理 【知識・技能】 四川料理の湯の取り方を理解している 【思考・判断・表現】 中国料理で使う調味料の作り方を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中華包丁を適切に取り扱い、安全に使用することが出来る	○	○	○	9
	西洋料理（ブイヨン） 【知識及び技能】 基本となるブイヨンの取り方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する香辛料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 牛刀を安全に使用し、ペティナイフの使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 フォン・ド・ボライユの取り方を理解している 【思考・判断・表現】 香辛料の種類と名称を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 牛刀とペティナイフを安全に扱える	○	○	○	9
	中国料理（炒） 【知識及び技能】 炒という技法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 火力を調節し、すべてが強火でないことを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 鍋振りの方法を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 中華鍋を正しく扱い、適切に炒めることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 「炒」を行う際、鍋振りができる	○	○	○	9
	西洋料理（肉） 【知識及び技能】 ポワレとソテーの違いを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 肉の火の入れ方を理解し、中心が生にならない焼き方を知る 【学びに向かう力、人間性等】 食材には生で食べられるもの（サラダ）と、食べられないもの（肉）があるのを理解し、衛生観念を深める	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 フライパンを正しく扱い、ポワレとソテーの違いを理解し、豚肉、鶏肉の扱い方と焼き加減を確認し判断することが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 肉を扱うまな板、布巾、包丁を使い分けることが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		4
	中国料理（前菜） 【知識及び技能】 中国料理の前菜の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理の献立構成を理解し、献立の順番を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理の前菜にはどのような種類があるか説明することが出来る 【思考・判断・表現】 中国料理の献立構成を理解し、献立を順番に組み立てることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解している	○	○	○	10
	西洋料理（オードブル） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る 西洋料理のオードブルの位置づけを理解している 【思考・判断・表現】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学期	オードブルにはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る		オードブル種類を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類理解している	○	○	○	10
	中国料理（油烹法） 【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識が身に付いている」 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	10
	西洋料理（ポタージュ） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解している	○	○	○	10
	定期考査			○	○		4
3 学期	中国料理（蒸烹法） 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法を用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識が身に付いている」 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	9
	西洋料理（ポワゾン） 【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解している	○	○	○	8
	定期考査			○	○		4
							合計
							105

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 総合調理実習

教 科： 家庭 科 目： 総合調理実習 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組

使用教科書：（ 全国調理師養成施設協会 6 総合調理実習 成分表 ）

教科 家庭 目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 総合調理実習 目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、調理に関して総合的に捉え、食生活関連産業を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
大量調理の施設・設備、献立・調理、食事環境とサービスなどについて体系的・系統的に理解するとともに理解するとともに、相互に関連付けられた技術・情報を収集・整理することができる。	食生活関連産業における調理と食事提供に関する課題を発見し、食生活関連産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の深化・総合化を目指して自ら学び、食生活関連産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	集団調理実習 【知識及び技能】 集団調理実習の特徴を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 大量調理の方法を実践する 【学びに向かう力、人間性等】 「食」の安全性の大切さを理解しする	教科書、プリント 17人で90人分の職員・生徒用の松花堂弁当を販売しサービスをする	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 集団調理は自分が担当する料理の数は少ないが、失敗や食中毒は全員へ大きな影響を及ぼすことを意識し、「客」に対し安全を意識した丁寧なマナーを身に付けている	○	○	○	36
	定期考査			○	○		1
2 学 期	接客サービス 【知識及び技能】 求められるサービスとは何か理解する 【思考力、判断力、表現力等】 接客サービスの基本を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 食卓の演出にはどのようなものがあるのかを知る	教科書、プリント 1学期で学んだ学習を生かし、クラスで担当を割り振り、17人で100人以上の松花堂弁当を販売する	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 サービスにおける大切な姿勢を理解し、お客様の存在を意識した調理が出来ている	○	○	○	40
	定期考査			○	○		1
3 学 期	クレーム対応 飲食店開業計画 【知識及び技能】 クレームはなぜ発生するか理解する フードビジネスについて理解する 【思考力、判断力、表現力等】 クレーム対応の心構えを理解する 社会のニーズと調理師の役割について考え、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 クレームの種類とその対応方法を理解する	教科書、プリント 真空調理や新たな調理法の原理や理論を知り、理解を深める。 進路に向けて、飲食店開業計画についても学ぶ。	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 苦情三変の法則を知り、クレーム対応が出来る	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
							合計 105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 社会福祉基礎

教科：福祉

科目：社会福祉基礎

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 6組～ 組

使用教科書：（実教出版「社会福祉基礎」 中央法規「人間の理解」「社会の理解」）

教科 福祉

の目標：

- 【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 社会福祉基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を見出し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第3編 第1章社会保障制度の意義と役割 【知識及び技能】 社会福祉・社会保障制度の意義やその役割について理解する。 【思考・判断・表現】 社会福祉を推進する我が国の行政体制に関して理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 社会福祉と社会保障制度について理解し、今後の社会福祉の推進について主体的に考察する。	指導事項 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・社会保障制度の意義と役割 ・社会福祉と社会保障制度 ・社会福祉を推進する機関 国民生活を支える社会保障制度 ・日本の社会保険制度の枠組み 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 社会福祉と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 社会福祉と社会保障制度に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉と社会保障制度の今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	第2章子ども家庭福祉 【知識及び技能】 子ども家庭福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における子ども家庭福祉の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の子ども家庭福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・少子化時代の子ども子育て支援 ・子育て支援と保育 ・障害のある子どもの福祉 ・子どものすこやかな成長への支援 ・市町村と児童相談所の役割 ・社会的養護と児童虐待への対応 ・子どもの貧困と一人親家庭の福祉 ・子どもの権利と子ども家庭福祉 教材 ・教科書、ワークシート、辞書	【知識・技能】 子ども家庭福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子ども家庭福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、子ども家庭福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3章障害者福祉 【知識及び技能】 障害者福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における障害者福祉の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の障害者福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・障害福祉 ・社会モデルとICF ・障害者の現状と生活のしづらさ ・障害福祉の理念 ・ノーマライゼーション ・自立生活運動 ・障害者基本法 ・障害者総合支援法 ・障害者ごとの現状と支援 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 障害福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 障害福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、障害福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	第4章高齢者福祉と介護保険制度 【知識及び技能】 高齢者福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における高齢者福祉の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の高齢者福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・介護保険制度 ・在宅サービス ・認知症ケア ・介護保険施設 ・老人福祉施設 ・地域包括ケア ・生活保護の種類と基準 ・生活保護の実施運営体制と最近の動向 ・ホームレスの自立支援 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 高齢者福祉と介護保険制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 高齢者福祉と介護保険制度に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、高齢者福祉と介護保険制度の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	生活支援のための公的扶助 【知識及び技能】 生活支援のための公的扶助について、基本的な知識や制度について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 公的扶助の位置づけについて理解し、今後の在り方について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 公的扶助について理解し、その諸課題を主体的に考察する。						

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5章生活支援のための公的扶助 第6章国民の生活を支える社会保障制度 【知識及び技能】 公的扶助と社会保障制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における公的扶助と社会保障制度の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の公的扶助と社会保障制度の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・生活保護制度 ・生活困窮者自立支援法 ・生活福祉資金貸付制度 ・医療保険制度 ・後期高齢者医療制度 ・公的年金 ・雇用保険と労災保険 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 公的扶助と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 公的扶助と社会保障制度に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、公的扶助と社会保障制度の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 介護福祉基礎

教科：福祉 科目：介護福祉基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 6組～6組

使用教科書：（介護福祉基礎 実教出版）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身に

【思考力、判断力、表現力等】介護に関する諸問題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている

【学びに向かう力、人間性等】より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 介護福祉基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身に付けている	介護に関する諸問題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている	より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 介護従事者を取り巻く状況 【知識・技能】 介護の歴史と現状を理解し、介護にかかわる専門職および人材について正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 介護人材の確保に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。 定期考査	・介護の歴史と現状 ・介護福祉士の養成 ・介護人材の確保と定着 ・介護従事者のキャリアアップ ・介護従事者の社会的地位の向上	【知識・技能】 介護の歴史と現状を理解し、介護にかかわる専門職および人材について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 介護人材の確保に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護職への学習に取り組む態度	○	○	○	12
				○	○		1
	B 介護における安全確保と事故対策 【知識・技能】 介護のリスクマネジメントや事故予防を理解し、身体拘束の禁止および防災対策について正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 介護現場における諸課題を発見し、解決する力を身につける。 定期考査	・介護におけるリスクマネジメント ・事故予防のための対策 ・介護現場で多い事故 ・身体拘束の禁止 ・介護現場における防災対策	【知識・技能】 介護のリスクマネジメントや事故予防を理解し、身体拘束の禁止および防災対策について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 介護現場における諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護現場での学習に取り組む態度	○	○	○	12
				○	○		1
2 学期	C 介護実践における連携 【知識・技能】 多職種連携の必要性を理解し、各専門職との連携や地域社会の役割について正しい知識を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 多職種連携や地域社会の役割について主体的に考察できる。 定期考査	・多職種連携とチームケア ・医療、保健、福祉と介護 ・介護支援専門員との連携 ・ボランティアとの連携	【知識・技能】 多職種連携の必要性を理解し、各専門職との連携や地域社会の役割について正しい知識を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 多職種連携や地域社会の役割について主体的に考察している。	○		○	12
				○			1
	D 介護従事者の役割と介護福祉士 【知識・技能】 介護の専門性を理解し、在宅介護従事者や施設介護従事者の役割について、正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 災害時の支援に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。 定期考査	・介護の役割、介護福祉士の専門性 ・災害時における支援、平常時の防災活動 ・在宅介護従事者の役割 ・施設介護従事者の役割 ・終末期における介護従事者の役割	【知識・技能】 介護の専門性を理解し、在宅介護従事者や施設介護従事者の役割について、正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 災害時の支援に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 災害時の学習に取り組む態度	○	○	○	12
				○	○		1
3 学期	E 介護従事者の健康管理 【知識・技能】 心理面、身体面の健康管理を理解し、労働安全衛生について正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 健康管理に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。 定期考査	・健康管理の重要性 ・心理面の健康管理 ・身体面の健康管理 ・労働安全衛生に関する知識	【知識・技能】 心理面、身体面の健康管理を理解し、労働安全衛生について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 健康管理に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康管理への学習に取り組む態度	○	○	○	17
				○	○		1
				○	○		合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目

コミュニケーション技術

教科：福祉

科目：コミュニケーション技術

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 6 組・科目組

使用教科書：（実教出版 コミュニケーション技術）

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造

科目 コミュニケーション技術

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護福祉場面で活用できるコミュニケーションにおける基礎的な知識と技術を習得する。	サービス利用者やその家族を取り巻く状況を理解し、それに応じたコミュニケーションを実践する力を養う。	サービス利用者やその家族との信頼関係構築および専門職としてのよりよい関係・チームを構築を目指し、コミュニケーションが図ることができる姿勢と態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	介護におけるコミュニケーションの意義と役割 【知識及び技能】 介護従事者としての人間関係形成に必要なコミュニケーションの意義と役割について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 介護従事者としての人間関係の形成に必要なコミュニケーション実践について考察する 【学びに向かう力、人間性等】 介護従事者としての自己理解を深め、利用者を含めた他者理解を深める 定期考査	指導事項 ・人間理解 ・人間関係 ・自己理解 ・他者理解 ・自己開示 ・自己開示 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法を実践につなげようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術の理解 【知識及び技能】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者の状態に合わせた技術を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者とのよりよい関係構築につなげる方法を考察できる	指導事項 ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション ・集団におけるコミュニケーション ・傾聴 ・受容 ・共感 ・効果的な質問 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションに関する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションのあり方を、根拠を持って考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションについて、主体的かつ協働的に考え実践しようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	サービス利用者に応じたコミュニケーション 高齢者・視覚障害・聴覚障害・言語障害 【知識及び技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者に合わせたコミュニケーションの方法を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者にとってのコミュニケーションの意味を考察する。 定期考査	指導事項 ・加齢による心身の変化 ・障害とコミュニケーション ・障害がもたらす二次障害 ・先天障害 ・中途障害 ・聴覚障害とコミュニケーション ・視覚障害とコミュニケーション ・言語障害とコミュニケーション 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、関連する知識や技術を身に付けている 【思考・判断・表現】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響と生活における課題を発見し、創造的に解決に向けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響や生活における課題を理解し、利用者の生きがいや生活向上に繋がるコミュニケーションを考え、実践しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	サービス利用者に応じたコミュニケーション 運動機能障害、知的障害、認知症とその家族 【知識及び技能】	指導事項 ・運動機能障害とコミュニケーション ・知的障害とコミュニケーション ・発達障害とコミュニケーション	【知識・技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、関連する知識や技術を身に付けている 【思考・判断・表現】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	各障害が利用者・家族とのコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 各障害が利用者・家族とのコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者に合わせたコミュニケーションの方法を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 各障害が利用者・家族とのコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者にとってのコミュニケーションの意味を考察する。	・高次脳機能障害とコミュニケーション ・精神障害とコミュニケーション ・高齢者とコミュニケーション ・認知症とコミュニケーション ・利用者や利用者家族との関係づくり ・利用者や利用者家族への支援 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響と生活における課題を発見し、創造的に解決に向けて考察できる。 利用者や利用者家族の思いを理解し、介護福祉士として思いに寄り添うために必要な姿勢や技術に関する課題を見つけ、解決しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響や生活における課題を理解し、利用者の生きがいや生活向上に繋がるコミュニケーションを考え、実践しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	介護におけるチームのコミュニケーション 【知識及び技能】 多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報共有について、記録や情報共有方法の基本的技術を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報共有について、記録や情報共有方法について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報共有について、記録や情報共有方法の基本的技術を理解し、コミュニケーション技術を用いたチーム形成について考察する。	指導事項 ・チームとしての連携に必要なコミュニケーション ・情報共有化のための基礎知識 ・記録の理解 ・記録の種類と方法 ・記録と利用者理解 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護場面において、利用者の生活を支えるチームとしての連携と情報共有の基本的技術の知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護場面において、利用者の生活を支えるチームとしての連携と情報共有方法を科学的根拠に基づいて創造し解決にむけて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護場面において、利用者の生活を支えるチームとしての連携と情報共有方法について、科学的根拠に基づいて主体的かつ協働的に考えることができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 福祉 科目 生活支援技術

教科：福祉

科目：生活支援技術

単位数：4 単位

対象学年組：第 2 学年 6 組

使用教科書：（中央法規 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 7 生活支援技術Ⅱ 15 医療的ケア 実教出版 生活支援技

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 生活支援技術 の目標：福祉の元力・考え方を働かせて、実践的・体験的な学習活動を工夫することを通して、適切な女子生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	実技：排泄介助の手順 【知識及び技能】排泄介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】排泄介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得 ・実技テスト	【知識及び技能】 ・排泄介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・排泄介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
	医療的ケア：人間と社会・保健医療制度とチーム医療・安全な療養生活 【知識及び技能】医療的ケアが誕生した背景や他職種協働の重要性を理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】医療的ケアを実施している方が、施設や在宅で生活する際に気を付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】事例を通じて医療的ケアを実施している方には、どういった配慮を他者と相談・協力しながら、積極的に授	・座学を通じた知識の理解 ・救急救命	【知識及び技能】 ・医療的ケアが誕生した背景や他職種協働の重要性を理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・医療的ケアを実施している方が、施設や在宅で生活する際に気を付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・事例を通じて医療的ケアを実施している方には、どういった配慮を他者と相談・協力しながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
	実技：入浴介助の手順 【知識及び技能】入浴介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】入浴介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】入浴介助を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得	【知識及び技能】 ・入浴介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・入浴介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・入浴介助を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
	医療的ケア：清潔保持と感染予防・健康状態の把握 【知識及び技能】清潔保持やスタンダードプリコーションといった、衛生に関する基礎知識を理解する 【思考力、判断力、表現力等】清潔保持やスタンダードプリコーションと関連付けて、様々な事例や対応方法に関する技術を理解する 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、衛生概念を培う。	・座学を通じた知識の理解	【知識及び技能】 ・清潔保持やスタンダードプリコーションといった、衛生に関する基礎知識を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・清潔保持やスタンダードプリコーションと関連付けて、様々な事例や対応方法に関する技術を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者と協調し話し合うことで、介護福祉士が持つべき衛生概念を培う。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	実技：入浴介助（手浴・足浴・全身清拭）の手順 【知識及び技能】手浴・足浴・全身清拭時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】	・座学・実技を通じた技術の習得	【知識及び技能】 ・手浴・足浴・全身清拭時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	い手順で手技を習得させる 【思考力、判断力、表現力等】 手浴・足浴・全身清拭を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる		・手浴・足浴・全身清拭を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
	医療的ケア：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 【知識及び技能】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える	・座学を通じた知識の理解	【知識及び技能】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
	実技：移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助の手順 【知識及び技能】 移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助時に配慮する点や、様々な利用者像に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 演習を通じて対象利用者像に迫れるようなコミュニケーション方法を選択しながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得 ・実技テスト	【知識及び技能】 ・移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助時に配慮する点や、様々な利用者像に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じて対象利用者像に迫れるようなコミュニケーション方法を選択しながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	10
	医療的ケア：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 【知識及び技能】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる。高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。高齢者及び障害児・者の経管栄養で記	・座学を通じた知識の理解	【知識及び技能】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える	○	○	○	14

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える。対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。						
	定期考査			○	○		1
	実技：様々な介助 【知識及び技能】事例を基に、その方にとって今必要な介助は何かを考え実際に介助をする 【思考力、判断力、表現力等】事例検討を行った上で介助を行い、配慮する点や、最低限の支援に留めているか考え現場でも対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と事例を検討したりしながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得 ・実技テスト	【知識及び技能】 ・事例を基に、その方にとって今必要な介助は何かを考え実際に介助をする 【思考力、判断力、表現力等】 ・事例検討を行った上で介助を行い、配慮する点や、最低限の支援に留めているか考え現場でも対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と事例を検討したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
3 学 年	医療的ケア：高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説 【知識及び技能】高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障害児・者の経管栄養で起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、経管	・座学を通じた知識の理解 ・基本研修（座学）修了テスト	【知識及び技能】 ・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢者及び障害児・者の経管栄養で起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、経管栄養について理解を深める。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
		合計					

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 介護過程

教科：福祉

科目：介護過程

単位数：

単位

対象学年組：第 2 学年 6 組～ 組

使用教科書：（ 実教出版：「介護過程」 中央法規：「介護過程」

）

教科 福祉

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】福祉分野について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会生活を目指して学び、発展的、協働的社会に取り組める態度を育む。

科目 介護過程

利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解する。
利用者の生活課題の解決に向けて、介護職として望ましい考えのもと介護過程を展開できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉に関する教科で学んだ知識と技術を統合し個別支援の意義、役割を理解するとともに生活における継続的な支援が行えるよう技術力の向上できる。	個別的な生活支援を展開する上で、生活導線や身体、精神面の変容に気づける観察力を高め専門用語を用いた記録（表現）力を養う。	生活を支援する専門職として、生活上の課題に気づくことができ、計画を修正展開できる解決力を習得できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 介護過程とはなにか 【知識・技能】 生活支援に関する技術は根拠にもとづいて行われていることを理解できる 【思考・判断・表現】 個々によって、生活スタイルが異なるため、ニーズに沿った支援に着眼する 【主体的に学習に取り組む態度】 生活支援を行ううえで、生活動作から求められる支援を考察できる。	1 介護過程の意義と目的 2 介護過程の全体像 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 根拠に基づいた介護実践には、利用者の視点での解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 介護過程における各展開過程を理解すると共に計画自体の意義について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護過程の目的を日本国憲法の基本的人権、幸福追求権を根拠に理解するとともに、実際に求められる視点について考察する。	○	○	○	2
	介護過程の展開 【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いた収集方法の違いが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために関連図作りを行い考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 日々の状態を把握するための動作、観察した現状を記録へ繋げる。	1 情報収集とアセスメント 2 生活課題と目標設定 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いて収集方法の違いを習得する。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために、色別を用いて関連図作りを行い整理することで、課題が明確化できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の学習時から、様々な書式に合わせた表現・専門用語を用いた文章を書き、構成力を培うことができる。	○	○	○	5
				○	○	○	2
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	介護過程の展開 【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するための解釈、統合、計画立案の仕組みがわかる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題、直接、間接など課題に優先順位を付けた計画の考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げられ考察できる。	1 介護計画の立案 2 課題計画の実施と評価 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題に命に関連する課題などに優先順位を付けられ計画が立案できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた情報を記録し現状に沿った立案ができる。	○	○	○	6
				○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	介護過程の実践 【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報取るため、修得力を高める。 【思考・判断・表現】 日々の生活から課題が変わっていくことがわかり、支援時の些細な変容に気づけ、記録に繋げられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報共有し計画を遂行するための関係性を築けるよう、日々の生活のなかから観察力、洞察力を磨ける。	1 介護計画に基づいた支援の展開 2 日々の支援内容を記録に繋がる 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報を取るための修得力が習得できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題目標に優先順位を付けることができ、サービス提供時の様子を専門的視点、思考、過程を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げ、展開ができ修正に繋げられる。	○	○	○	7

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	定期考査			○	○	○	1
							合計

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
							35

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 介護総合演習

教科：福祉

科目：介護総合演習

単位数：

単位

対象学年組：第 1 学年

組～ 組

使用教科書：（

）

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護を実践するために必要な技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】専門的な知識の能力を活用し適切に判断し、専門用語を用いて表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】福祉の見方や考え方を働かせ、他者と共同して問題解決など学びに向かう積極性を習得する。

科目 介護総合演習

の目標： 介護実習などについて、他科目で学んだ知識などを統合し、課題解決に必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地域福祉や社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・介護演習 【知識・技能】 介護実習が適切かつ総合的に展開できるように、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 介護実習を通して個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	・指導事項 介護演習 事例研究 ・教材 プリント、PC端末	【知識・技能】 介護実習施設の概要のみならず、意義や目的、実習生としての心構えなどの説明された内容を理解し、適切に記入する 【思考・判断・表現】 これまで他科目で学んだ知識と技術を統合し、具体的な事例について考察し、より良い生活支援について記入する 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な事例をから得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	11
2 学期	・事例研究 【知識・技能】 事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 介護実習や福祉活動などから得た体験についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 介護実習がや福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に主体的かつ協働的に取り組む	・指導事項 事例研究 ・教材 プリント、PC端末	【知識・技能】 介護実習を通して、利用者の心理や生活状態などについて、理解するとともに記入する 【思考・判断・表現】 介護実習から福祉専門職として必要な援助方法や価値観について考え、プリントに記入する 【主体的に学習に取り組む態度】 介護実習の経験から得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
3 学期	・調査、研究、実験 【知識・技能】 調査、研究、実験を通して、福祉の各分野について理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 福祉の各分野について、調査、研究、実験などを通して課題を発見するとともに、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】 福祉の各分野について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	・指導事項 調査、研究、実験 ・教材 プリント、PC端末	【知識・技能】 社会福祉基礎の内容と介護実習での経験から、関連する部分を理解し、記入する 【思考・判断・表現】 介護実習や社会人講師の講演を通して、地域福祉について、福祉施設の役割等を考察し、その内容を記入する 【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学習や経験を通して、これからの福祉に必要なことなどを、グループで話し合い、まとめた内容を発表する	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 介護実習

教科：福祉

科目：介護実習

単位数：

単位

対象学年組：第 2 学年 6 組～ 組

使用教科書：（ 中央法規 「介護実習・介護総合演習」 ）

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】介護従事者としての職業倫理及び基礎的基本的意識と技能を習得する

【思考力、判断力、表現力等】各科目の学習で得た知識を生かし、対象者を適切にアセスメントして関わるができる

【学びに向かう力、人間性等】様々な対象者に対するコミュニケーションを積極的に図り、介護従事者に必要な人減関係の構築を図る

科目 介護実習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護従事者としての職業倫理及び基礎的・基本的な知識と技術を活用した介護支援が選択できるようにする	職員の方や利用者の方とのかわりを通じて介護の実際を学び、適切な態度と言葉使いで他者と関係性を育み、適切な表現を用いて実習記録に記入できる	施設実習での様々な場面において、なぜそのような支援が必要なのか、介護の本質は何かについて深く理解しようと努め、関心を持って実習に望んでいる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	介護実習事前指導 【知識及び技能】 福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 介護実習の留意点を正しく理解し、実践に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】	実習の手引き 実習の心得 実習記録の書き方 実習の留意点等 テキスト・教科書・手引き等を用いて指導	【知識・技能】 福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を心得ている 【思考・判断・表現】 介護実習の留意点を正しく理解し、実践できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対する積極性がみられる	○	○	○	
2 学期	夏季休業 12日間の施設実習 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法、利用者一人ひとりに対しての対応方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】	施設実習（障害者施設） 巡回指導を定期的の実施 実習指導者との連絡調整	【知識・技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者一人ひとりに応じたケアの理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】 アセスメントシートを活用し、専門用語を使用する	○	○	○	100
	10日間の施設実習 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重した個別ケアについてを考察する 【学びに向かう力、人間性等】	施設実習（介護老人福祉施設） 巡回指導を定期的の実施 実習指導者との連絡調整	【知識・技能】 介護過程のの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者一人ひとりに応じたケアの理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】 アセスメントシートを活用し、介護過程の学習を实践して対象者の全体像を記録できた	○	○	○	75
	介護実習事後指導 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法を考察する	実習成果のまとめ 成果発表会に向けての準備	【知識・技能】 介護過程のの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	
3 学期							合計 175

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

福祉

科目 こととからだの理解

教科：福祉 科目：こととからだの理解

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 6組～組

使用教科書：（実教出版 こととからだの理解 ）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護を実践するために必要な技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】専門的な知識の能力を活用し適切に判断し、専門用語を用いて表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】福祉の見方や考え方を働かせ、他者と共同して問題解決など学びに向かう積極性を習得する。

科目 こととからだの理解 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実践的・体験的な学習活動を通じて、介護技術を活用し、個々に応じた介護を安全に実践できる。	専門的知識を習得し、その能力を生かして状況に応じた言語的表現、及び学習活動を積極的に行うことができる。	他者との協働活動や演習を通じて他者理解を深め、個々の良さを認め合い、協働して学習活動を積極的に行うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	生活動作に関することとからだのしくみ ①身じたくに関することとからだのしくみ ②移動に関することとからだのしくみ ③食事に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 日常生活におけることとからだのしくみについて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 日常生活におけることとからだのしくみの変化を理解し、適切に表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、日常生活場面と健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるよう指導する。 ・日常生活動作における人間のこととからだのしくみを考察し理解させる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	④入浴に関することとからだのしくみ ⑤排泄に関することとからだのしくみ ⑥睡眠・休養に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 日常生活におけることとからだのしくみについて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 日常生活におけることとからだのしくみの変化を理解し、適切に表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、日常生活場面と健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるよう指導する。 ・日常生活動作における人間のこととからだのしくみを考察し理解させる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	生活場面の变化に関することとからだのしくみ ①感染に関することとからだのしくみ ②緊急時に関することとからだのしくみ ③災害時に関することとからだのしくみ ④終末期に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 さまざまな場面に応じたこととからだのしくみの変化について理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 こととからだの変化に応じた対応について判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に学習に取り組める	・さまざまな生活場面から、その時々状況が与えることとからだの変化について、実践的に理解させる。 ・こととからだの変化に応じた適切な対応方法について理解させ、場面に応じた対応を身につけさせる	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と協働的に取り組んでいる	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	人間の成長と発達 ①発達 ②発達段階 ③発達課題 【知識及び技能】	・人間の出生から成長、発達について基礎的な知識を身につけさせる。 ・人間の各発達段階に応じた発達課題について理解させ、各段階に	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】				

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	人間の発達過程について理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 人間の発達段階におけるそれぞれの特徴について適切に判断し、表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に学習に取り組める	応じた特徴を適切に表現させる。	授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	老年期の理解と日常生活 ①老年期の定義と特徴 ②加齢に伴う心身の変化の特徴 ③加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 ④高齢者の心理 【知識及び技能】 老年期の定義と特徴について正しく理解している 【思考力、判断力、表現力等】 加齢に伴う心身の変化について正しく理解し、適切な対応ができる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に学習に取り組める	・老年期におけるこころとからだの変化について正しく理解させる。 ・加齢に伴う心身の変化について正しく理解し、さまざまな場面に応じた対応方法について適切に判断できるよう実践的な理解を促す。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計
							70